

I 日本語・日本事情教育：  
日本語研修コース(中級)(年次報告(平成28年度後期・  
29年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00024871">https://doi.org/10.14945/00024871</a>

## 日本語研修コース（中級）

袴田 麻里

### 1. コースの概要

平成14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、平成21年から主として研究生や大学院生が受講するコースに変更し後期にのみ開講している。29年度からは「日本語中級Ⅰ～Ⅹ」として全学教育科目になった。

本コースは、主として修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、入学後に問題なく正規課程で勉学できる日本語能力（日本語能力試験1級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に修士生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

集中コースという性格上、研究生の履修は、研究室での活動に制限が生じる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コースについて指導教員から理解を得る努力をした。また、申込み用紙には、受講者と指導教員が受講理由を書く欄を設け、指導教員が受講を了承する形を取ったが、大学院生は専門課程の科目の履修と重ねざるを得ない時間割になり、他の受講生よりもやや出席率が低くなった。

履修者の中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに、指導教員へ送付し、学部教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。また、留学生支援ボランティアや浜松市民を教室に招いてインタビューさせるなど、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れられるよう心がけた。

### 2. 授業期間

第7期：平成28年10月11日～平成29年2月10日

### 3. 受講者

プレイスメントテストの結果、以下の3名が中級後半の日本語力を持つと判定され、受講した。

クラス	受講者	国	所属・在籍身分
日本語4	1	インドネシア	インドネシア大学交換留学生
	2	ベトナム	総合科学技術研究科工学専攻1年
	3	中国	工学部研究生

## 4. 時間割

## 日本語4

	月	火	水	木	金
5・6時限 12:45～14:15	文法、語彙	文法、語彙	科学系日本語	文法、語彙	文法、語彙
7・8時限 14:25～15:55	会話	作文	聴解	速読	作文

## 5. 授業内容

## 日本語4（中級後半）

目標：大学での勉学に必要な日本語能力（日本語能力試験N1以上）を身に付ける。

## 語彙・文法 4コマ／週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。  
②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、2課に1回、復習の時間を設ける。漢字テストは1課ごとに行なう。

## 速読 1コマ／週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

## 作文 2コマ／週

使用教材：自主製作教材

目的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内

容を学んだ表現を使いながら作文する。

**聴 解** 1コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

『毎日の聞き取り50日 中級』上、下（凡人社）

『毎日の聞き取り50日 中級プラス』上、下（凡人社）

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内 容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにくかった部分については、その理由について考察する。

**会 話** 1コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中上級』（専門教育出版）

目 的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内 容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

**科学系日本語** 1コマ/週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目 的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内 容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。